

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	和泉市介護保険施設整備事業に伴	階数	地上5F地下0F
建設地	大阪府和泉市府中町	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	78人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年3月3日
敷地面積	2,738㎡	作成者	株式会社内藤建築事務所大阪事務
建築面積	1,243㎡	確認日	2023年3月3日
延床面積	3,941㎡	確認者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 92% (138 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 92%

④上記+ 92%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	高効率照明やリサイクル材を採用し、環境負荷を低く抑えらえる建築物となるよう配慮した。	その他 特になし
Q1 室内環境	ホルムアルデヒドの放散量が少ない建材の採用や自然換気性能を確保し、空気質環境を高めている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	LED照明を採用し、エネルギー消費の低減に努めている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を参照値内におさめるよう配慮している。
Q2 サービス性能	配管部材は耐用年数の長いものを採用し、機器更新時のバックアップスペースを確保するなど、維持管理に配慮している。	
LR2 資源・マテリアル	節水便器やリサイクル建材を導入し、省資源への取り組みを行った建物としている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0173

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	和泉市介護保険施設整備事業に伴う医療法人徳洲会特定施設・グループホーム新築工事					
		建設地	大阪府和泉市府中町					
		用途/区分	病院					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3		
②	みどり・ヒート アイランド対策					3		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
		エネルギー消費量の報告						
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.3	3		
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			3.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価			2.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価			2.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			2.5	3		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称	考慮事項					
先進的技術の導入								
特に配慮した事項		建物の断熱性能を高め、快適な室空間と冷暖房負荷を抑えるよう、エネルギー削減に配慮している。						